

第3回



安曇野市



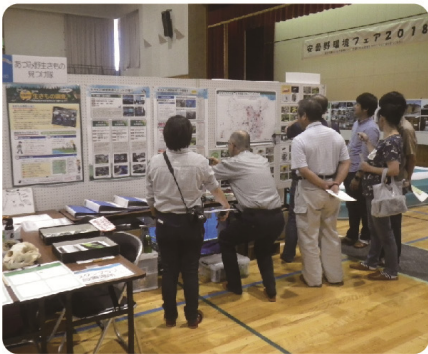
2018

「生きもの調査」

～市内の生きものをみんなで調べよう～



《 調査結果 》



2019年2月

安曇野市



2018 「生きもの調査」調査結果

- 目次 -

1. 安曇野市生きもの調査とは 1
2. 調査の様子 4
3. 調査結果の概要 6
4. 調査結果からみえてきたこと 8

【資料編】

- ・ 種ごとの調査結果 20
- ・ 調査時配布資料 86
- ・ 調査参加者 96



1 安曇野市生きもの調査とは

生きもの調査の目的

安曇野市生きもの調査は、市民の皆さんに参加いただく形で市内の生きものの変化を調べるとともに、皆さんの身近な生きものへの理解を深めていただくことを目的として、2007（平成19）年から定期的に実施しています。

今回は第3回目の調査となり、「身近な生きもの」や「希少な生きもの」、「注意すべき生きもの」66種を対象として、市内における生息・生育状況などを調べました。

調査の方法

調査対象期間：2018（平成30）年3月21日～10月31日

調査にあたっては、市ホームページや環境課の窓口において、確認した生きものの情報を記入する「調査用紙」や確認した場所を調べる「調査マップ」のほか、対象となる66種の生きものの特徴を示した「対象種の説明資料」の配布を行いました。

市民の皆さんに調査をしていただき、メール・FAX・郵送・ながの電子申請・担当窓口への持参によりご報告いただいた情報を取りまとめました。また、情報が少ない種や地域について、市内在住で動植物に詳しい方にご協力いただき、追加調査を実施しました。

【調査の流れ】

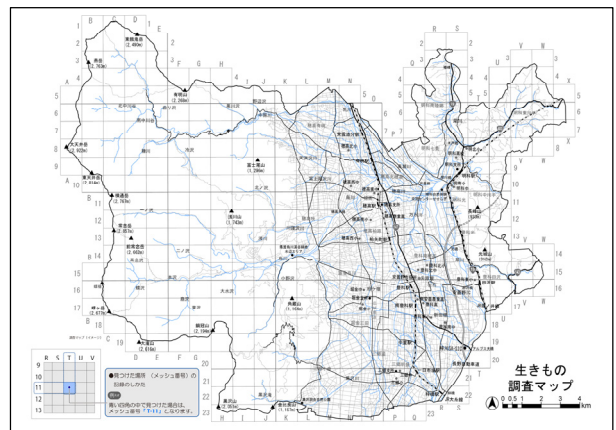
① 記録用紙や対象種の説明資料を入手



② 確認した生きものを記録



③ 調査結果をメールなどで報告



調査マップ



対象種の説明資料

調査対象の生きもの

調査対象とした生きものは、以下の 66 種です。

- ・身近な生きもの 30 種
- ・希少な生きもの 24 種
- ・注意すべき生きもの 12 種



調査対象

①

身近な生きもの

私たちの身のまわりには、昔から親しまれてきた生きものが多くいます。しかし、人間の生活が便利になることなどによって、これまで普通に生息・生育していた身近な生きものにも変化がみられています。

調査では、山や里などの自然の豊かさ、水のきれいさなどを指標する身近な生きもの 30 種を対象としました。

対象とした生きもの (例)



セリ

農薬をあまり使わない田んぼや土の水路などにみられます。春の七草のひとつとしても有名です。



カブトムシ

夜から朝方の時間帯に樹液の出るヤナギやクヌギが生える里山などでみられます。7月頃が狙い目です！



ツバメ

春から夏にかけて里山や市街地などでみられます。湿度の高い日は餌となる虫の飛び高さが低くなるため、ツバメが低く飛ぶと雨が降ると言われています。



ニホントカゲ

自然豊かな山や里で見られます。青い尻尾は子どもの特徴です。身に危険が迫ったときは自ら尻尾を切り離すことができます。

対象とした生きもの一覧

植物	セリ
	シナノタンポポ
	シロバナタンポポ◆
	ヤブカンゾウ
	ウツボグサ
ワレモコウ	
魚類	シマドジョウ
水生生物	カワニナ
	サワガニ
	ホウネンエビ
昆虫類	ギンヤンマ
	クロスジギンヤンマ
	ツマグロヒョウモン◆
	ヒグラシ
	カブトムシ
	ミヤマクワガタ
トノサマバッタ	
鳥類	カワセミ
	オオヨシキリ
	ヒバリ
	ツバメ
	イワツバメ
カッコウ	
オナガ	
哺乳類	アブラコウモリ
	ノウサギ
	ホンドギツネ
爬虫類	ニホントカゲ
	ニホンカナヘビ
貝類	カタツムリの仲間

◆：人の生活変化などに影響を受けて分布を広げていると考えられる生きもの

調査対象 ②

希少な生きもの

市内には、全国的または長野県内において絶滅のおそれがあるとされている生きものも多くいます。

今回の調査では、安曇野市版レッドデータブック*に掲載されている種類も含めて24種の希少な生きものを対象としました。

対象とした生きもの(例)



カワチシャ

似た種であるオオカワチシャ(外来種)が増えたことで、生育できる場所が減るなどの影響がみられており、絶滅が心配されています。



オオルリシジミ

現在、本州では長野県の3カ所(安曇野市、飯山市、東御市)にしか生息していないとてもめずらしいチョウです。国営アルプスあづみの公園内で保護されています。



*安曇野市版レッドデータブックとは

自然環境保全の取り組みの一つとして2014(平成26)年に作成しました。絶滅の恐れがある生きものとして301種の生きものを選定しています。

対象とした生きもの一覧

植物	ミクリ
	ナガエミクリ
	バイカモ
	カワチシャ
	カワラニガナ
	イヌノフグリ
	アマナ
魚類	ユウスゲ
	ササユリ
	カジカ
昆虫類	ドジョウ
	ホトケドジョウ
	ゲンジボタル
	ヘイケボタル
	アオハダトンボ
鳥類	タイコウチ
	オオルリシジミ
	ヒクイナ
類両生	ヨタカ
	アオバスキ
類哺乳	トノサマガエル
	トウキョウダルマガエル
陸上	ニホンカモシカ
貝類	キセルガイの仲間

調査対象 ③

注意すべき生きもの

以前は少なかった生きものや外国から持ち込まれた生きものが増え、もともとした生きものに悪影響を与える事例が全国的にみられています。

市内において、増加が心配される外来種や最近増えていると言われている生きもの12種を対象としました。

対象とした生きもの(例)



オオキンケイギク

繁殖力がとても強いいため、昔から生育するほかの植物の生育場所を奪い、減少させてしまうことが心配されています。



ニホンジカ

以前は絶滅が心配されるほど減っていましたが、最近では急激に数が増えており、植物などへの影響が心配されています。

対象とした生きもの一覧

植物	オオカワチシャ★
	アレチウリ★
	セイヨウタンポポ★
	オオキンケイギク★
	オオブタクサ★
水生生物	ナヨクサフジ★
	コモチカワツボ★
昆虫類	アオマツムシ★
	ハクビシン★
哺乳類	アライグマ★
	ニホンイノシシ
	ニホンジカ

★: 外来種、あるいは外来種と考えられる生きもの

2 調査の様子

調査内容の周知

第3回調査を実施するにあたり、調査について「広報あづみ」で紹介するとともに、調査に関するパンフレットを市内の全戸に配布しました。

パンフレットには、調査の目的や方法のほか、対象種の紹介などを掲載しました。また、最後のページは、調査結果を記入できるようにしました。

このほか、安曇野環境フェア 2018 ではブース出展を行い、中間時点での調査結果を報告するとともに、来場者からの情報収集を行いました。



パンフレット（表紙）

生きもの調査関連イベントの開催

より多くの市民の皆さんに生きもの調査に参加いただくため、生きもの調査の関連イベントとして、「プレ講座」および「自然観察会」を開催しました。

プレ講座（屋内講習）

プレ講座では、生きもの調査の趣旨や方法の説明のほか、市内の自然環境の変遷や生息・生育している動植物に関する講座、対象種などの生きものの展示を行いました。

子どもから大人まで計37人の参加があり、調査方法などについて学んでいただきました。また、多くの方に「あづみ野生きもの見つけ隊*」に登録いただきました。

- 開催日時：2018（平成30）年4月28日（土）10：00～11：30
- 会 場：安曇野市役所本庁舎 大会議室
- 内 容：①生きもの調査の概要説明
②安曇野市の自然の変遷の解説（講師：浅川行雄氏）
③安曇野市の生きもの紹介（講師：吉田利男氏）



プレ講座の様子



市内の生きものに関する講演



対象種などの生きもの展示

*あづみ野生きもの見つけ隊とは

安曇野市生きもの調査に積極的に参加する市民を募る取り組みのこと（2012年度（第2回）調査より実施）。登録した市民には、隊員証の発行およびノベルティグッズ（缶バッジ）を配付しました。

季節ごとに計3回の自然観察会を開催し、調査の方法や生きものを見分け方について市民の皆さんに体験していただきました。

開催チラシを市内の小学校などに配布したところ、小学生を含む多くの方にご参加いただきました。

なお、2回目（夏季）および3回目（秋季）の自然観察会については、台風の影響や当日の悪天候により、屋外での実施が困難となったため、屋内において、調査の体験や生きもの判別クイズなどを実施しました。



生きもの調査を体験中！

自然観察会の開催状況

回数	日時	会場	講師	参加人数	備考
■春の植物と野鳥を探す					
1回目	5月3日(木・祝) 9:00~12:00	自然体験交流センター 「せせらぎ」	植物：横内文人氏 動物：丸山 隆氏	28人	
	開催の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・御宝田遊水池周辺および隣接する用水路や耕作地周辺において実施。 ・対象種13種（セリ、ヒバリ等）のほか、複数の植物・動物を確認。 			
■夏の植物と水生生物を探す					
2回目	7月7日(土) 9:00~12:00	長野県烏川溪谷緑地 水辺エリア	植物：松田貴子氏 動物：北野 聡氏	35人	荒天により 屋内（市役所） で開催
	開催の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の植物や動物（魚類・水生生物）に関する講座を実施。 ・水生生物の仕分け作業や植物の同定作業を体験。 			
■秋の植物と昆虫を探す					
3回目	9月8日(土) 9:00~12:00	黒沢洞合自然公園	植物：尾関雅章氏 動物：那須野雅好氏	31人	雨天により 屋内（三郷公民館） で開催
	開催の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の植物や動物（昆虫）に関する講座を実施。 ・植物の種の観察や生きもの判別クイズを実施。 			



1回目の
自然観察会の様子



2回目の自然観察会
(屋内講習)の様子



3回目の自然観察会
(屋内講習)の様子

3 調査結果の概要

調査参加者数および報告件数

今回の調査では、計 141 人の個人と 2 団体から、対象種 61 種 1,299 件、対象種以外も 300 種以上、1,000 件を超える情報が寄せられました（確認場所不明のものを除く）。

なお、今回「あづみ野生きもの見つけ隊」に登録された市民 50 人のうち、20 人の方から情報を提供いただきました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

調査結果

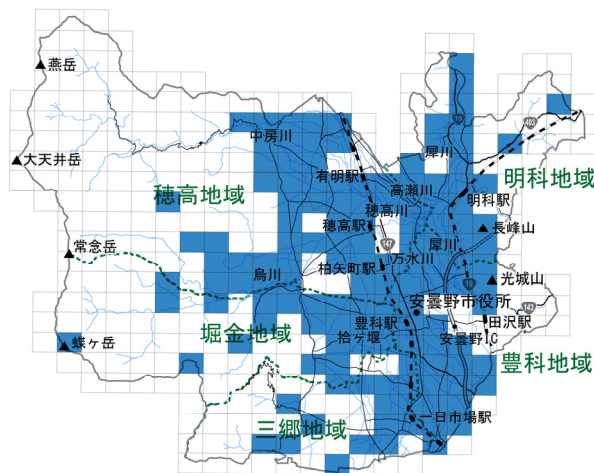
今回の調査では、対象種 66 種のうち、61 種について計 1,299 件の情報が寄せられました。その内訳は、「身近な生きもの」が 29 種 762 件、「希少な生きもの」が 21 種 211 件、「注意すべき生きもの」が 11 種 326 件でした。

調査により、対象の生きものについて以下のようなことがわかりました。

また、市内での生息・生育状況が特徴的なものについて「4 調査結果からみえてきたこと」にまとめました。種ごとの詳しい確認状況は資料編をごらんください。

「身近な生きもの」の結果概要

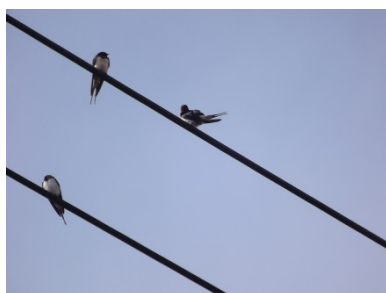
- 平地を中心に、高山帯も含め広い範囲で確認されました。
- セリ、サワガニ、ツマグロヒョウモン、ツバメ、ホンドリツネなど計 12 種は、市内全ての地域で確認されました。
- 特にツバメやカッコウは多くの情報が寄せられました。
- 自然豊かな山や里周辺でよくみられるシナノタンポポやウツボグサ、ニホントカゲやニホンカナヘビは、主に穂高地域・堀金地域・明科地域の山麓部で確認されました。
- シロバナタンポポのみ、確認の報告はありませんでした。



身近な生きものが確認されたメッシュ



サワガニ
(明科地域)



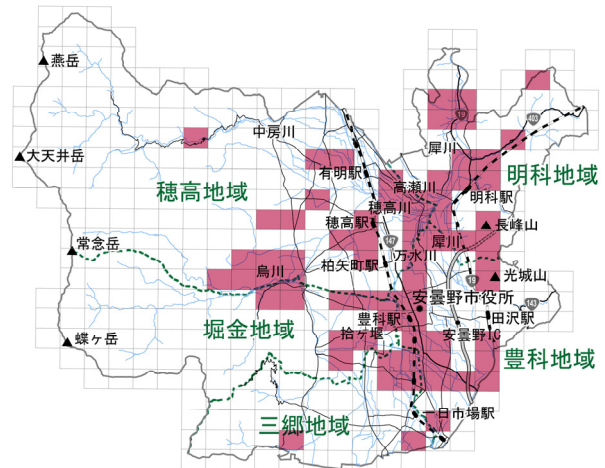
ツバメ
(明科地域)



ニホンカナヘビ
(堀金地域)

「希少な生きもの」の結果概要

- 平地や山麓部で確認されました。
- ドジョウ、ヘイケボタル、トノサマガエルは寄せられる情報が多く、この3種は市内全ての地域で確認されました。
- 水田周辺や水路などでみられるヘイケボタルは、主に穂高地域と明科地域の河川沿いで確認されました。
- ミクリ、イヌノフグリ、キセルガイの仲間については、確認の報告はありませんでした。



希少な生きものが確認されたメッシュ

※オオルリシジミとササユリの位置は省いています。



ドジョウ
(明科地域)



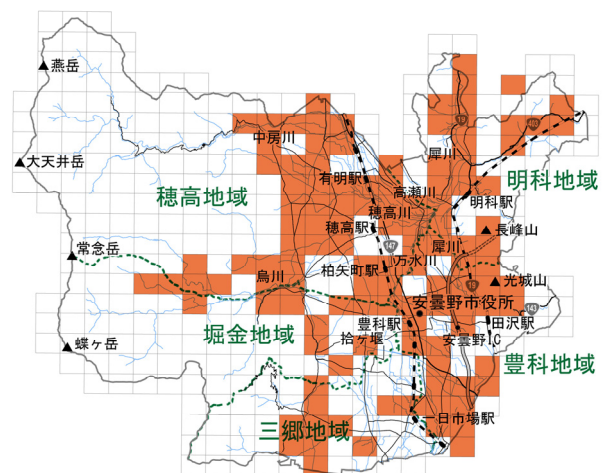
ヘイケボタル
(明科地域)



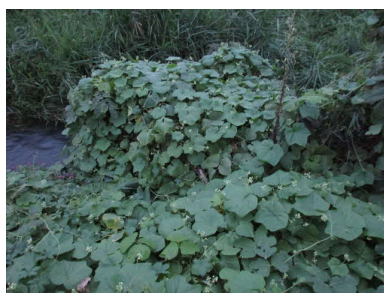
トノサマガエル
(明科地域)

「注意すべき生きもの」の結果概要

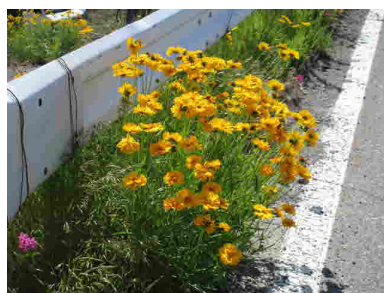
- 主に河川沿いなどで確認されました。
- アレチウリ、オオキンケイギク、ハクビシンなど計6種は市内全ての地域で確認されました。
- 特にアレチウリについては、河川の法面などで多く確認されました。
- アライグマのみ、確認の報告はありませんでした。



注意すべき生きものが確認されたメッシュ



アレチウリ
(穂高地域)



オオキンケイギク
(堀金地域)



コモチカワツボ
(明科地域)

4 調査結果からみえてきたこと

これまで実施した3回の調査により、それぞれの対象種について、生息・生育状況に変化がない種がいる一方で、確認箇所数に増減がみられる種や、確認場所が以前と変化している種などが確認されました。それらの結果からみえてきたことをご紹介します。

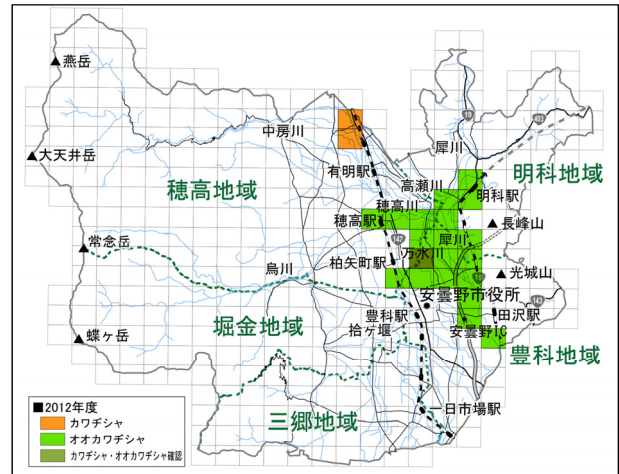
水辺の植物のカワヂシャ（在来種）とオオカワヂシャ（外来種）の様子

在来種であるカワヂシャと外来種であるオオカワヂシャは、ともに水の流が緩やかな河川や湧水、水路などに生育する植物です。生育する環境が競合しているため、オオカワヂシャが増えると、カワヂシャが生育できる場所が減少してしまうため、個体数の減少が心配されています。

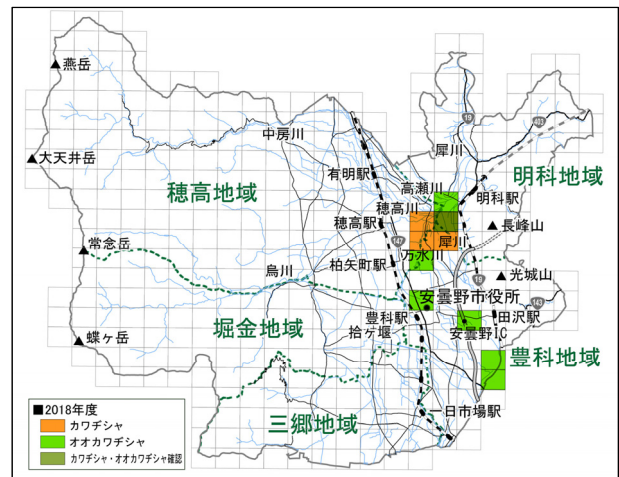
これまでの生きもの調査でも、オオカワヂシャは平地の広い範囲で確認されていますが、カワヂシャは、ごく一部の湧水地帯でのみ確認されている状況です。特に犀川・高瀬川・穂高川の三川合流周辺では、カワヂシャとオオカワヂシャがともに確認されていることから、生育地の競合のほか、この2種の雑種であるホナガカワヂシャの増加も心配されます（ホナガカワヂシャは、すでに豊科地域で確認されています）。



オオカワヂシャが繁茂する水路
(明科地域)



カワヂシャ・オオカワヂシャの確認状況
(2012年度)



カワヂシャ・オオカワヂシャの確認状況
(2018年度)

市内でみられるタンポポの様子

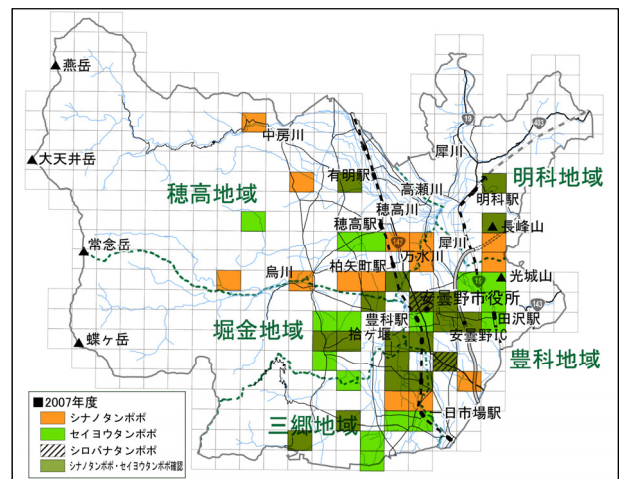
市内では、身近な生きものとして親しまれてきたシナノタンポポ（在来種）のほかに、セイヨウタンポポ（外来種）や、日本の他地域から人の手によって持ち込まれたとみられるシロバナタンポポ（在来種）も確認されています。

これまでの生きもの調査では、セイヨウタンポポは、市内の広い範囲で継続して確認されていますが、シナノタンポポは、確認場所が減少傾向にあり、今回の調査では市内南部での確認はほとんどありませんでした。また、シロバナタンポポは、もともと市内には少なく、豊科地域の一部でのみ確認されていましたが、今回の調査では確認の報告はありませんでした。

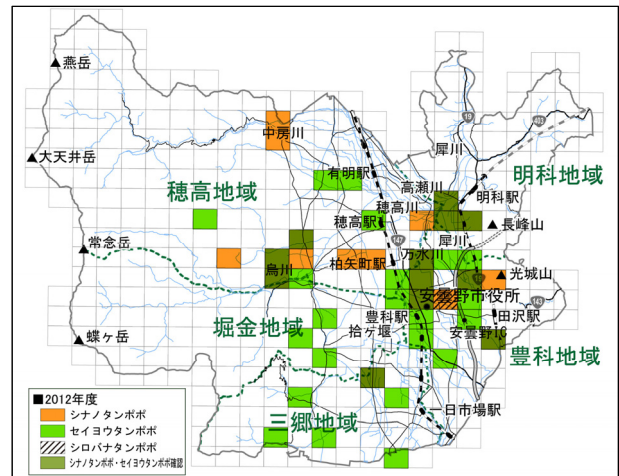
なお、シナノタンポポとセイヨウタンポポは交雑することが明らかとなっており、シナノタンポポの減少が心配されます。今回の調査では、雑種とみられるタンポポの情報も報告されています。



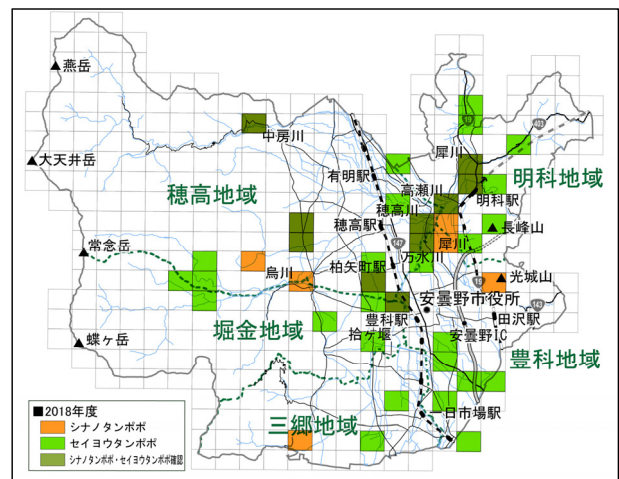
シナノタンポポとセイヨウタンポポとの雑種の可能性があるタンポポ



タンポポの仲間 3 種の確認状況
(2007 年度)



タンポポの仲間 3 種の確認状況
(2012 年度)



タンポポの仲間 3 種の確認状況
(2018 年度)

種ごとの確認状況⇒ シナノタンポポ：P.21 シロバナタンポポ：P.22 セイヨウタンポポ：P.76

明るい草原でみられるワレモコウとウツボグサの様子

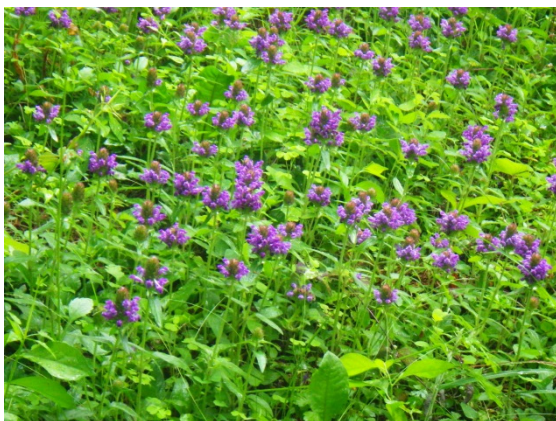
ワレモコウやウツボグサは、山麓部や山地の日当たりの良い草原などで生育する植物です。

これまでの生きもの調査では、いずれも平地から山麓部にかけて広い範囲で生育が確認されていましたが、平地での確認は減少傾向にあります。一方、山麓部から山地では、どちらの種も確認場所が多くなっています。

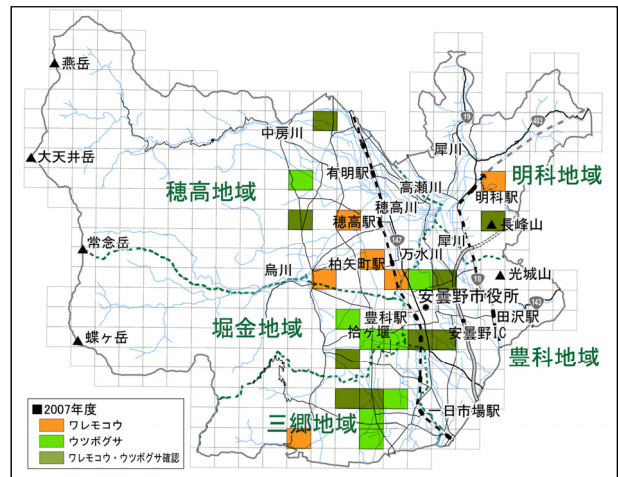
山麓部では、ウツボグサが、草原のほか林道沿いでも多く確認されています。林道沿いの日当たりを良くすることにより、これらの生育に適した場所を保つことが期待されます。



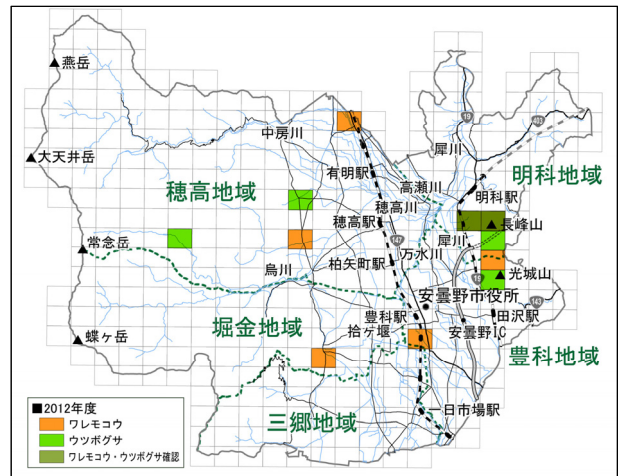
明るい草原で咲くワレモコウ
(穂高地域)



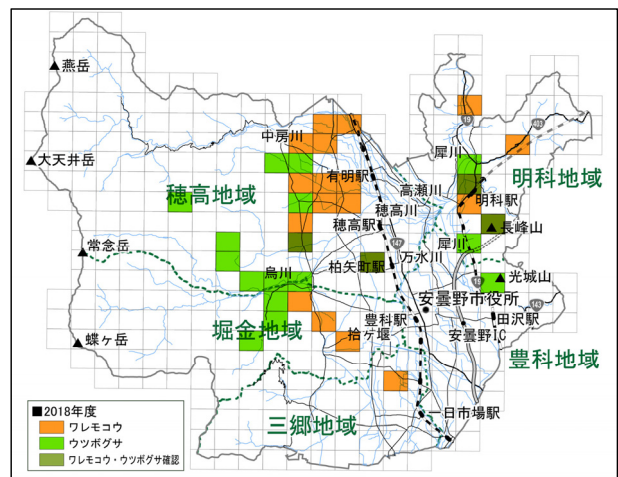
明るい草原に群生して咲くウツボグサ
(穂高地域)



ワレモコウ・ウツボグサの確認状況
(2007年度)



ワレモコウ・ウツボグサの確認状況
(2012年度)



ワレモコウ・ウツボグサの確認状況
(2018年度)

生育範囲の拡大が心配される外来種（アレチウリ・オオキンケイギク）の様子

アレチウリやオオキンケイギクは、日当たりのよい道路沿いや河川敷などに生育する外来植物です。一度侵入すると、その場所を一面に覆うほどの強い繁殖力があることなどから、いずれも特定外来生物に指定されています。

これまでの生きもの調査では、平地から山麓部の広い範囲で生育が確認されています。アレチウリは、犀川沿いに北側に広がっており、川の流れによって種子が運ばれている可能性があります。

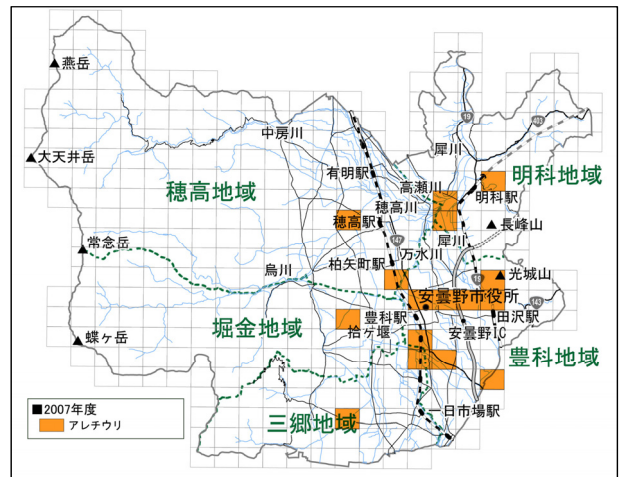
アレチウリは、2012（平成24）年度から市民による一斉駆除活動が行われており、今後の駆除効果が期待されます。また今回、オオハンゴンソウという特定外来生物の確認も報告されています。特定外来生物の栽培や生きたままの運搬などは禁止されていますので注意しましょう。



市民によるアレチウリ駆除活動の様子



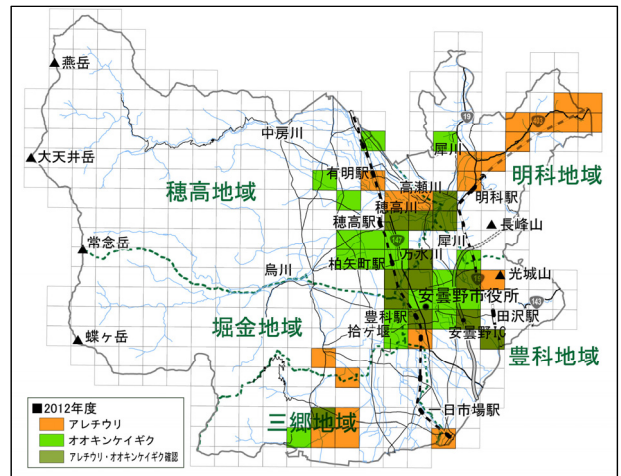
市内で確認されたオオハンゴンソウ



アレチウリの確認状況

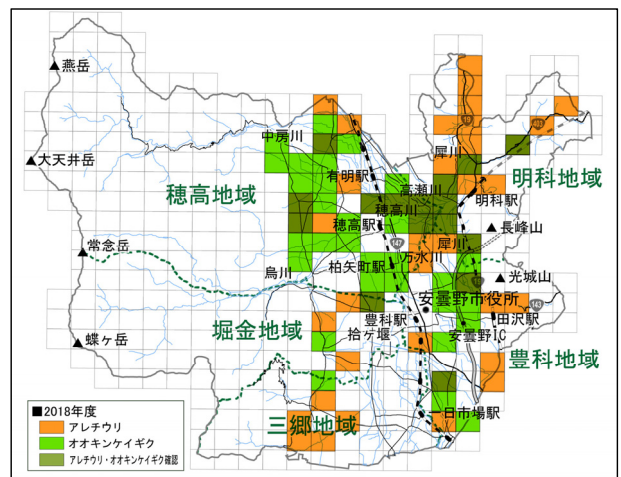
(2007年度)

※オオキンケイギクは調査対象外



アレチウリ・オオキンケイギクの確認状況

(2012年度)



アレチウリ・オオキンケイギクの確認状況

(2018年度)

種ごとの確認状況⇒ アレチウリ：P.75 オオキンケイギク：P.77

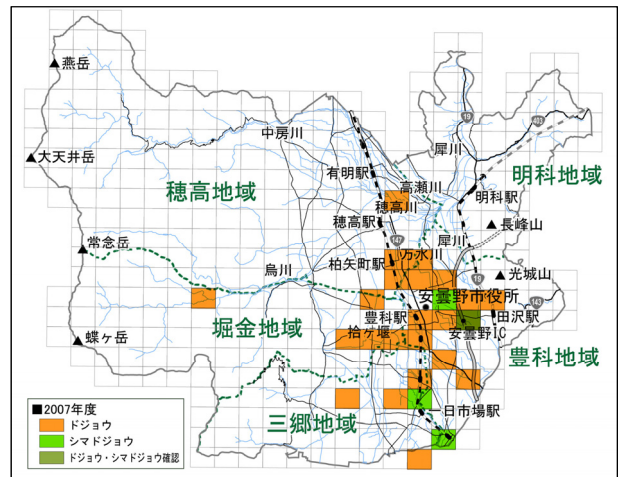
市内でみられるドジョウの様子

市内では、昔から水田や水路などに生息するドジョウのほか、川の中の砂礫地などに暮らすシマドジョウや湧水の流れるようなきれいな水路を好むホトケドジョウなどが確認されています。

これまでの生きもの調査では、ドジョウは平地で広く生息が確認されていますが、シマドジョウやホトケドジョウは確認場所が一部の場所に限定されている状況です。いずれの種もこれまでの調査結果からは生息地の大幅な減少などは確認されていませんが、外来種のドジョウ（カラドジョウなど）の増加や河川改修などにより、生息状況に変化が発生していないか今後も見守っていくことが大切です。

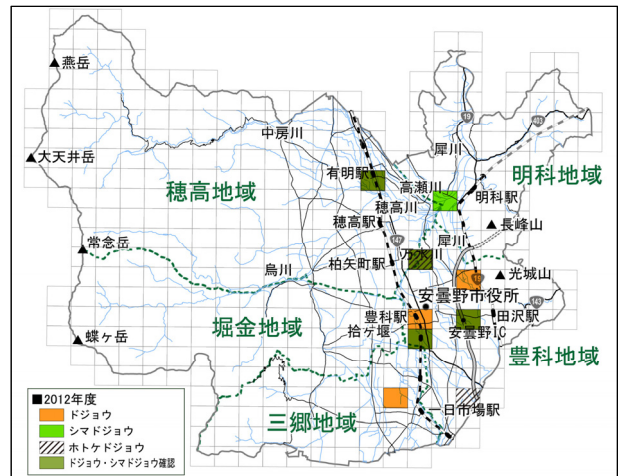


市内で生息しているカラドジョウ
(明科地域)

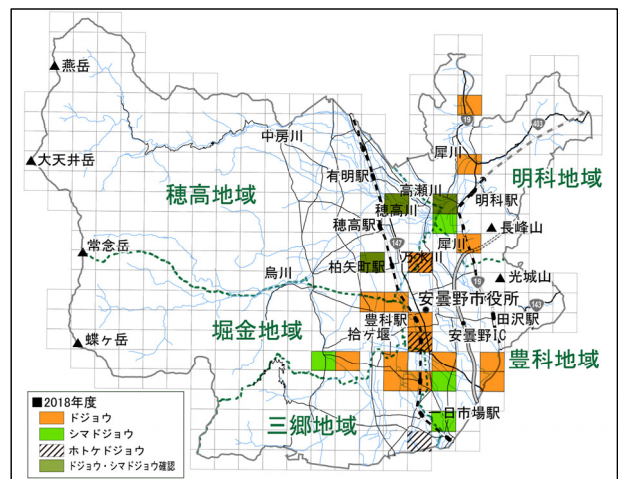


ドジョウ・シマドジョウの確認状況
(2007年度)

※ホトケドジョウ
は調査対象外



ドジョウの仲間3種の確認状況
(2012年度)



ドジョウの仲間3種の確認状況
(2018年度)

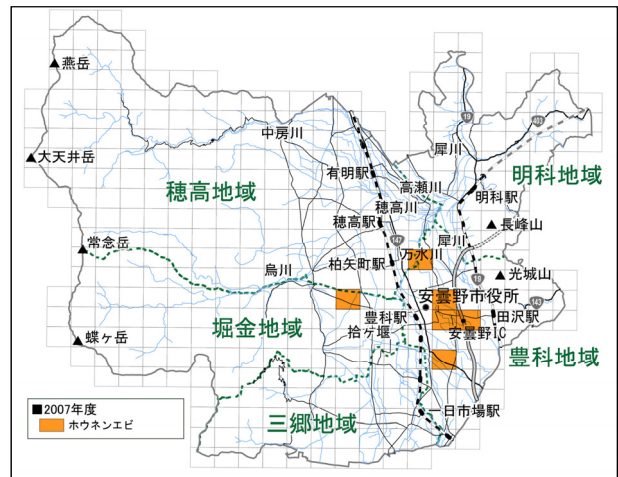
水田でみられるホウネンエビの様子

ホウネンエビは、田植え時期頃の水田に発生する生きもので、数億年も前からほとんど同じ姿をしていることから、生きた化石と呼ばれています。また、ホウネンエビという名前は、本種がよく発生する年は豊年（お米が豊作）になるとの伝承に基づくものです。近年は農薬などの影響を受けて、生息する水田は限られているといわれています。

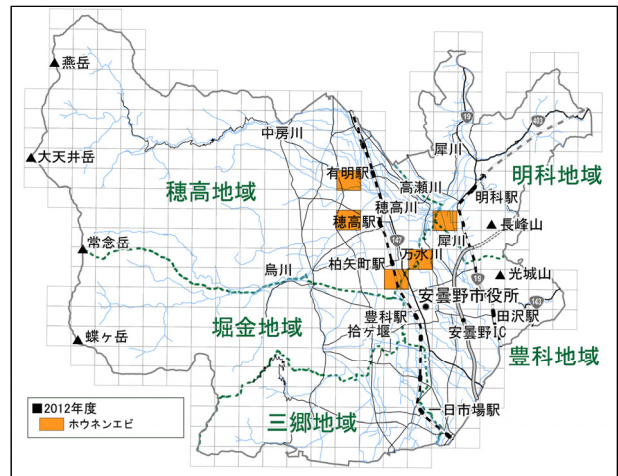
これまでの生きもの調査では、主に市内の中部から北部で確認されていましたが、今回の調査では、市内の南部も含む平地の広い範囲で確認されました。このことから、市内に、農薬が少なくホウネンエビが生息しやすい水田が増えてきていることがうかがえます。



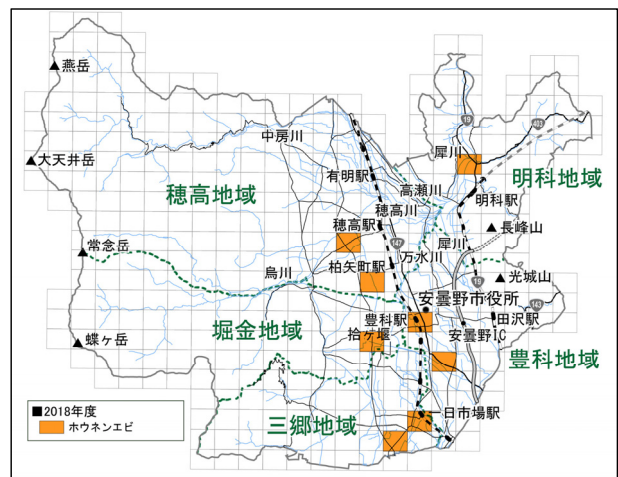
水中のホウネンエビ



ホウネンエビの確認状況
(2007年度)



ホウネンエビの確認状況
(2012年度)



ホウネンエビの確認状況
(2018年度)

環境変化によって分布を拡げているツマグロヒョウモンの様子

ツマグロヒョウモンは、主に温暖な地域に生息するチョウで、かつては長野県にはほとんど生息していませんでした。しかし、地球温暖化やスミレ類の植栽によって分布が拡大しているといわれており、長野県でも1990年頃から南部で確認数が増加し、2000年以降、急速に県全域に分布を拡げました。

これまでの生きもの調査では、主に市の中・南部で確認されていましたが、今回の調査では、確認の少なかった北部も含め市内の全域で確認されています。

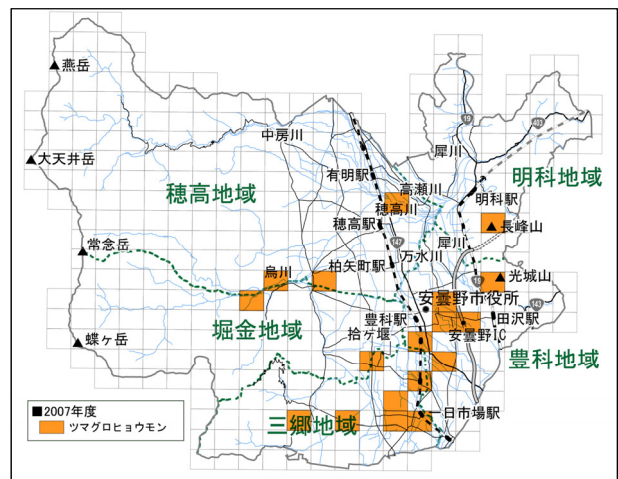
庭にスミレやパンジーなどを育てている方は、特徴的な幼虫が歩いていないか探してみましょう。



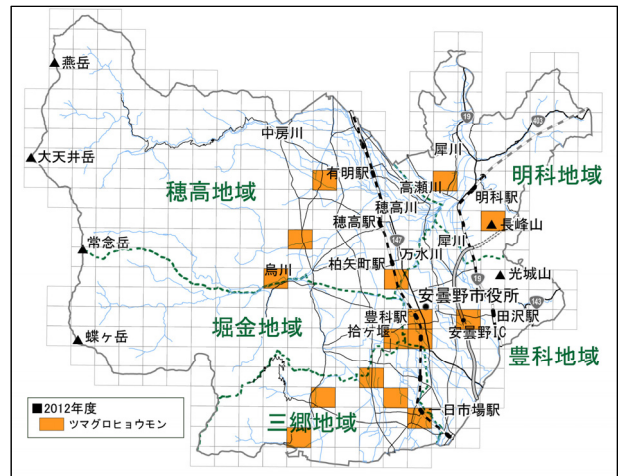
ツマグロヒョウモンの幼虫
(穂高地域)



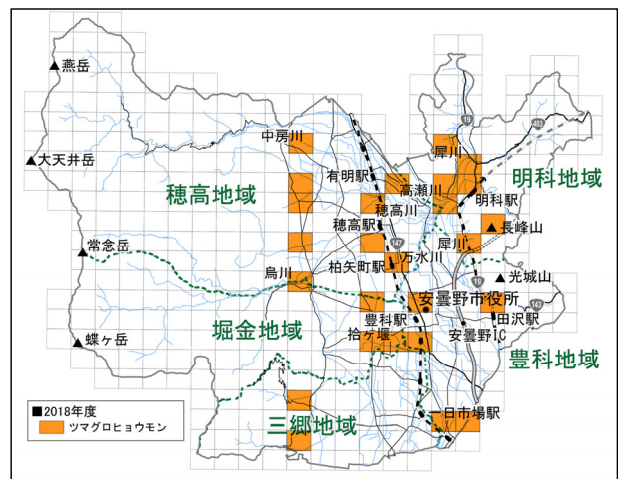
ツマグロヒョウモンの成虫(メス)
(穂高地域)



ツマグロヒョウモンの確認状況
(2007年度)



ツマグロヒョウモンの確認状況
(2012年度)



ツマグロヒョウモンの確認状況
(2018年度)

草原でみられるトノサマバッタの様子

昔から昆虫採集などで親しまれてきたトノサマバッタは、日本のバッタの中でも身体が大きく、遠くまで跳ぶことができます。日当たりがよく、草が密集しない草原や河原などに生息しています。

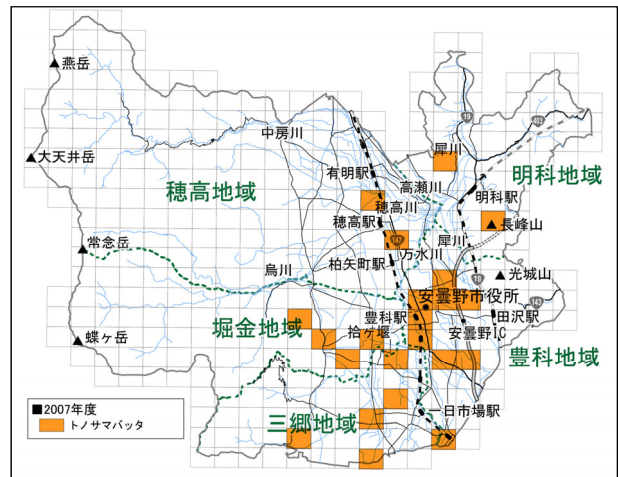
これまでの生きもの調査では、平地から山麓部にかけての広い範囲で生息が確認されていましたが、今回の調査では、確認場所が大きく減少し、特に南部では確認記録がありませんでした。確認された場所は、主に犀川や高瀬川などの河川敷が広がる場所であることから、市内ではトノサマバッタが好む草地環境が河川敷に限られている可能性があります。



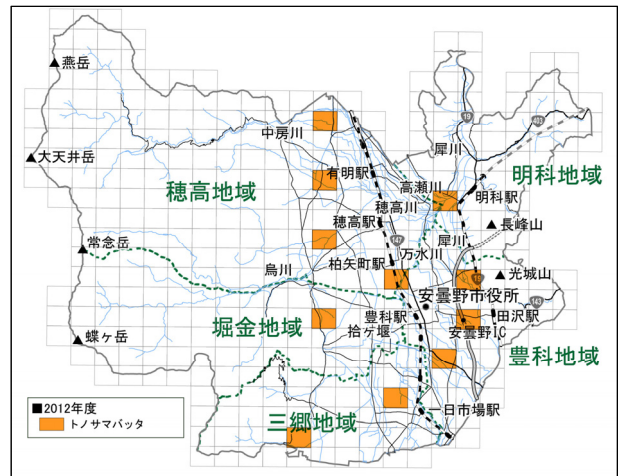
トノサマバッタが確認された付近の河川敷
(明科地域)



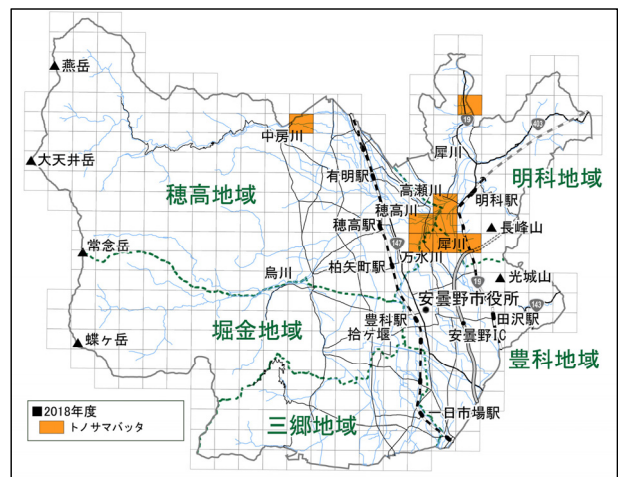
トノサマバッタの成虫



トノサマバッタの確認状況
(2007年度)



トノサマバッタの確認状況
(2012年度)



トノサマバッタの確認状況
(2018年度)

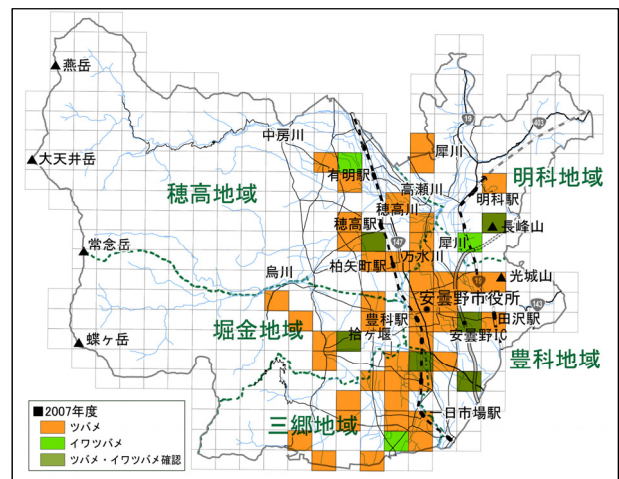
市内でみられるツバメの様子

市内では、家の周りや商店街などに巣を造るツバメと、ビルなど大きな建物に巣を造るイワツバメなどが確認されています。特にツバメは、家の軒下などに巣を造るため、他の鳥類に比べて、私たちの身近な生きものとなっています。

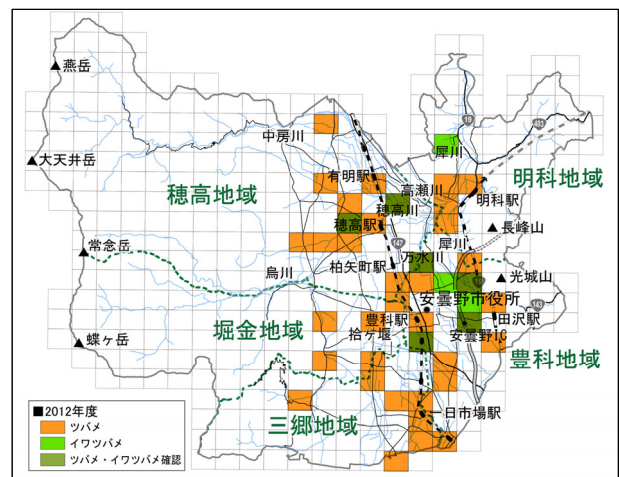
これまでの生きもの調査では、いずれも市内の広い範囲で生息が確認されています。今回の調査では、イワツバメが北アルプスの標高の高い場所でも確認されていますが、これはイワツバメが本来、山地の岩場に集団で巣を造る種であるためです。ビルや橋などの大型の人工物が増えてこれらに巣を造るようになり、イワツバメは身近な生きものとなりました。



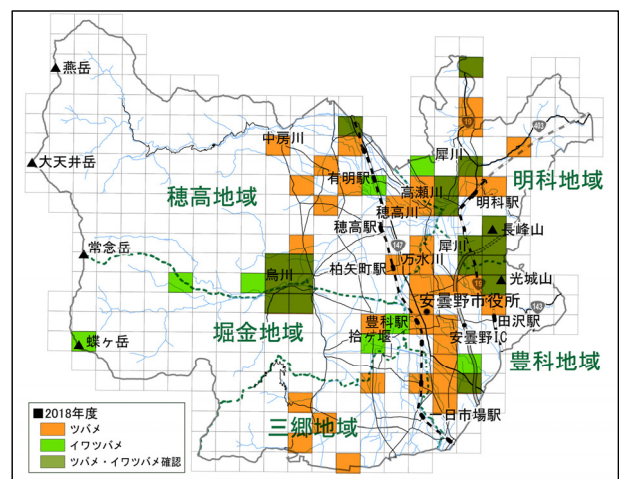
橋に造られたイワツバメの巣と親子



ツバメ・イワツバメの確認状況
(2007年度)



ツバメ・イワツバメの確認状況
(2012年度)



ツバメ・イワツバメの確認状況
(2018年度)

種ごとの確認状況⇒ ツバメ : P.40 イワツバメ : P.41

姿が似ているトウキョウダルマガエルとトノサマガエルの様子

市内には、水田などの湿地帯を好むトウキョウダルマガエルとトノサマガエルという姿が似ているカエルが生息しています。この2種の生息場所が重なるのは、長野県や新潟県など、一部の地域に限られています。

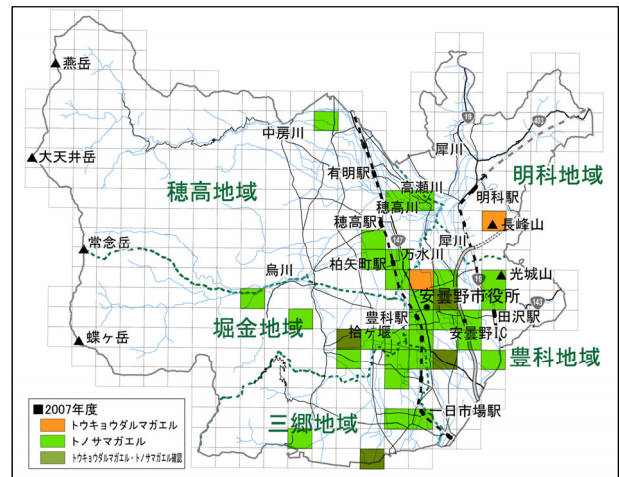
これまでの生きもの調査では、トノサマガエルは、平地の広い範囲で確認されていますが、トウキョウダルマガエルは限られた地域でのみ確認があり、今回の調査では、市内の北部と南部で確認されました。

長野県内では、トウキョウダルマガエルは北部に生息しているとされていますが、近年、トノサマガエルの分布が北上傾向にあり、今後分布が変化していく可能性があります。また、トウキョウダルマガエルとトノサマガエルは交雑することが明らかとなっており、今回の調査では、雑種とみられるカエルの情報も報告されています。

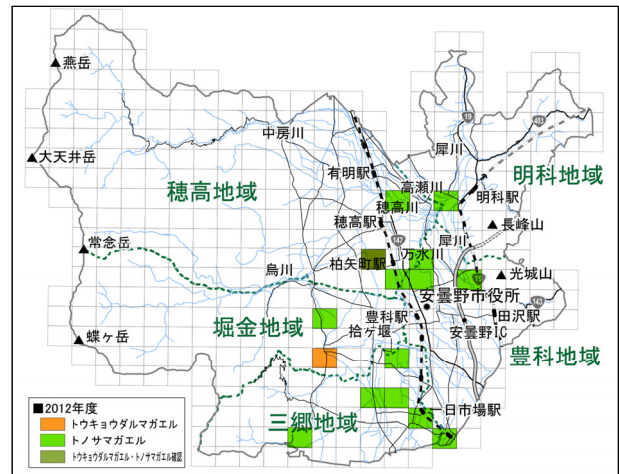


トウキョウダルマガエルとトノサマガエルの雑種個体

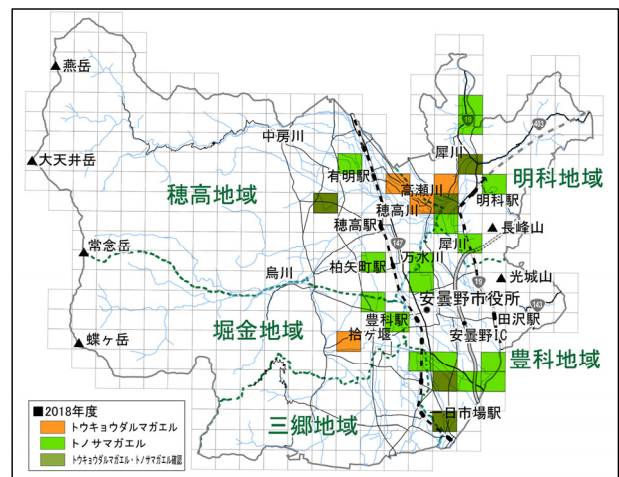
※背中にはトノサマガエルに多くみられる小さな突起がありますが、はん点の数はやや少なく、トウキョウダルマガエルの特徴に似ています。



トウキョウダルマガエル・トノサマガエルの確認状況 (2007年度)



トウキョウダルマガエル・トノサマガエルの確認状況 (2012年度)



トウキョウダルマガエル・トノサマガエルの確認状況 (2018年度)

人里周辺で生息する外来哺乳類（ハクビシン・アライグマ）の様子

近年、人里周辺でさまざまな野生動物による農作物被害などが問題となっていますが、ハクビシンやアライグマなどの外来種による被害も心配されています。

これまでの生きもの調査では、アライグマは市内ではまだ確認の報告はないものの、ハクビシンは、平地周辺でも確認されています。今回の調査では、山麓部で確認が多く、市内の広い範囲で生息していることがうかがえます。

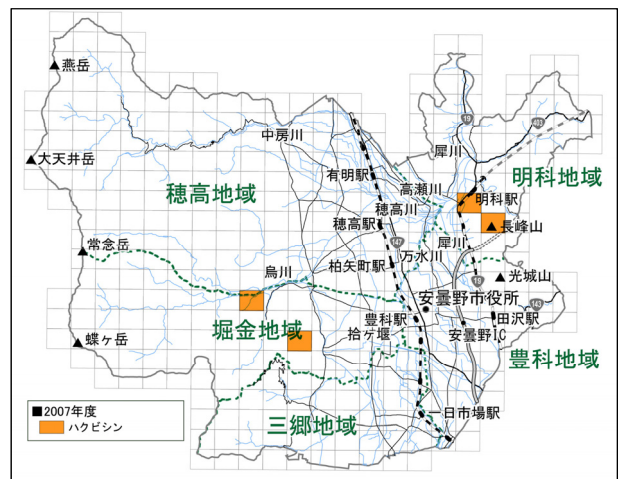
ハクビシンは木登りが得意で、神社や人家の屋根裏に侵入して住み着くこともあることから、屋外の柱などに5本指の足跡がついたり、屋根裏を歩く音がする場合には、早めの対応が必要です。



ハクビシンの足跡

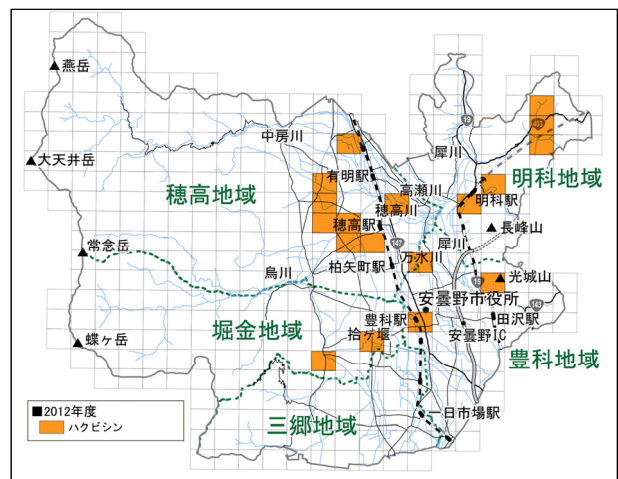


ハクビシン



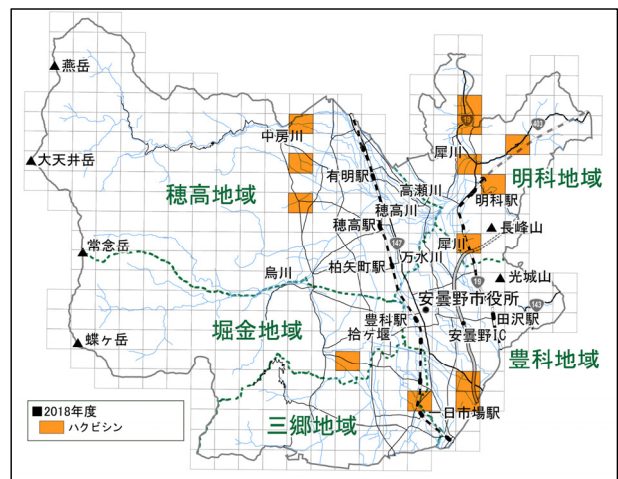
ハクビシンの確認状況
(2007年度)

※アライグマ
は調査対象外



ハクビシンの確認状況
(2012年度)

※アライグマ
は確認なし



ハクビシンの確認状況
(2018年度)

※アライグマ
は確認なし

種ごとの確認状況⇒ ハクビシン：P.82 アライグマ：P.83

市内に生息する大型哺乳類（ニホンカモシカ・ニホンジカ・ニホンイノシシ）の様子

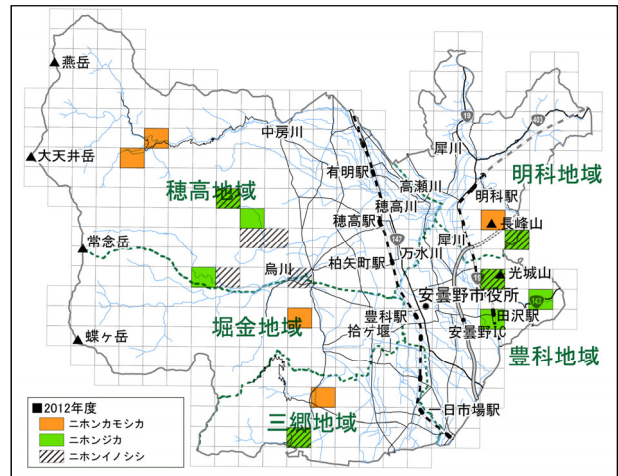
市内には、ニホンカモシカやニホンジカ、ニホンイノシシなどの大型哺乳類が生息しています。特にニホンジカやニホンイノシシは、生息数の増加にともなって農林業被害などが発生し、問題となっています。

これまでの生きもの調査では、ニホンカモシカは比較的山地での確認が多い傾向がみられますが、ニホンジカやニホンイノシシは、山地だけでなく山麓部や平地の河川沿いなどでも確認されています。また、2012（平成24）年度に比べて2018（平成30）年度は、東部から北部にかけて、ニホンジカとニホンイノシシの確認が増加しています。

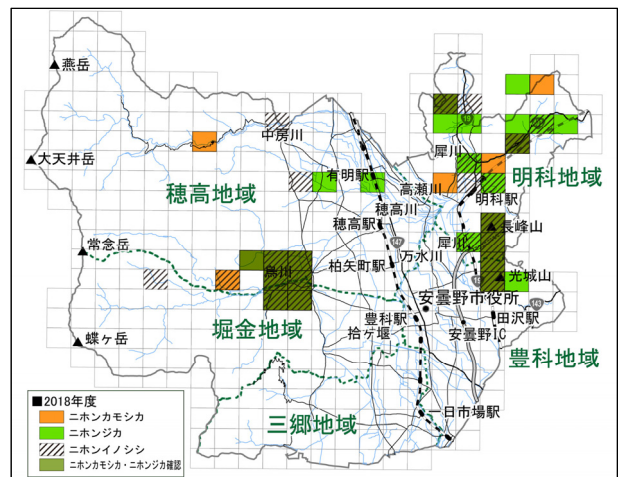
河川の河畔林などは、野生動物にとって通り道となっていることも多いことから、見通しを良くするなどして通りづらくし、人里に近づきにくい対策を行うことも重要です。



川を渡るニホンジカ



ニホンカモシカ・ニホンジカ・ニホンイノシシ
の確認状況（2012年度）



ニホンカモシカ・ニホンジカ・ニホンイノシシ
の確認状況（2018年度）